

組協 山形中央送協
山形山形

上山市と3者協定締結

車両特性活かす消防応援

山形中央生コンクリート協同組合（山形市、成田潔理事長）と山形県コンクリート庄

送協会（山形市、佐藤隆彦会長）は3月30日、上山市（横戸市長兵衛市長）と災害時における

消防活動応援に関する協定を締結した。同日、上山市役所で調印式を開いた。

横戸市長は「自然災害は起こらない方がいいのだが、（予期せず）どこでも発生する。これまでも本市は行政間の広域応援協定を締結してきたが、今回の協定では、地元の民間の方からの力も得て、少しでも市民から安心、安全だと言われる環境を作っていききたい」と述べた。同市が行っている総合防災訓練に参加するよう呼びかけて、成田理事長、佐藤会長

がそれに応じると約束した。成田理事長は今回の協定が地域の安全安心に寄与するとし、「万が一の場合にも庄送業界と協力して、ミキサ車、ポンプ車の特性を活かしながら貢献していきたい」とし、佐藤会長は生コン協組と庄送協会は、地元行政の3者に

よる協定は珍しいとしたうえで、「これまでに行ってきた防災訓練でも手こたえを感じている」と述べた。山形中央協組は11社10工場で構成され、工場に常駐しているミキサ車は97台。山形庄送協会は13社で構成され、ポンプ車55台を保有する。



左から佐藤会長、横戸市長、成田理事長

2016年に新潟県糸魚川市で発生した大規模火災でコンクリートミキサ車が消防用水を大量に運搬して貢献したことを受け、全国で協定の締結が進んでいる。山形中央協組と山形庄送協会では、ミキサ車で水を運搬、コンクリートポンプ車で給水や放水を行う連携を行うことを想定し、17年に山形市、18年に天童市と同様の協定を締結している。今回が3例目となる。調印式のあいさつで

成田理事長は今回の協定が地域の安全安心に寄与するとし、「万が一の場合にも庄送業界と協力して、ミキサ車、ポンプ車の特性を活かしながら貢献していきたい」とし、佐藤会長は生コン協組と庄送協会は、地元行政の3者に

よる協定は珍しいとしたうえで、「これまでに行ってきた防災訓練でも手こたえを感じている」と述べた。山形中央協組は11社10工場で構成され、工場に常駐しているミキサ車は97台。山形庄送協会は13社で構成され、ポンプ車55台を保有する。